

平成 29 年度 第 1 回観光立国推進協議会観光教育専門部会

目 的 日本観光振興協会では人材育成事業の一環として、大学生と対象として観光産業界への優秀な人材の輩出を目的とした寄附講義及び産学連携ツーリズムセミナー等の産学連携事業を実施してきたが、今後より若い世代より観光について広く理解し、関心を持ってもらうことが、今後観光立国をささえる基盤として重要との認識に至った。

日 時 平成 29 年 8 月 15 日（火） 16：30～17：45

場 所 公益社団法人日本観光振興協会 A 会議室
（東京都港区虎ノ門 3-1-1 虎ノ門 3 丁目ビルディング 6 階）

主 催 公益社団法人日本観光振興協会

参加状況 12 名（委員）+ 1 名（事務局）（オブザーバー 3 名、欠席 2 名）

プログラム

- 16：30～16：35 専門部会設立趣旨説明
公益社団法人日本観光振興協会 事業推進本部部長 高井晴彦
- 16：35～16：40 委員の紹介
- 16：40～16：45 委員長の承認について
- 16：45～17：00 観光教育の現状と課題について
玉川大学教育学部教授 寺本潔
- 17：00～17：05 沖縄の事例紹介について
公益社団法人日本観光振興協会 事業推進本部担当部長 北島哲也
- 17：05～17：40 意見交換
- 17：40～17：45 閉会挨拶
公益社団法人日本観光振興協会 常務理事 天野啓史

概略報告

今回、初めての開催となったが、観光産業関連企業、観光庁、大学といったまさに、産官学が揃ったため、それぞれの立場からの様々な意見があった。下からのボトムアップを図るため、当初、初等教育（小学生 4-6 年）をターゲットとしていたが、中学生、高校生といった中等教育についても意見があった。それぞれの層で観光教育に対するアプロ

一斉が異なると考えられるので、今後の方向性について、検討し、決定する必要があると思われる。 議事録もあわせて、ご参照ください。

【議事録】

(山崎氏) 先生が単独で観光教育をやっているところが多い。 学習指導要領に入っていないので、校長から、こっそり呼ばれることがある。 茨城県は2つの高校で観光コースを設置予定となっている。 また、福井県では国体開催の為に地元のみならず、他県を知る活動を始めている。 小、中学校では英語、家庭科も観光教育に関わる科目と考えられている。

(仲條氏) 中学、高等学校では通常の見学から体験、課題解決型の修学旅行へと変わりつつある。そこで、そこから何を学ぶのか?が大切である。 自然環境、震災復興等のテーマに対して、学生が問題意識を持てるような修学旅行が求められている。

(岡本氏) 学習しやすい環境を作ることが肝要である。

(澤山氏) 今まで、大学教育には寄附講義を通して、接していたが、初等教育は今回初めて触れるので、非常に新鮮に感じる。

(小川氏) 体験ものを自然、鉄道を通して、行ったことはある。

(根来氏) TOSS の静岡県の大会で先日、子供観光大使の発表があった。 中には英語で発表する子供もおり、クイズ形式の発表も含む、非常にレベルの高いものであった。

(越智氏) 修学旅行がなくなる可能性があるので、独自性を出して、全ての学校が海外へ行くといった斬新な案も必要と考える。 また、産業を理解してもらう為に経済同友会から小学校へ「ふるさと先生」を送っているが、あまり小学生は記憶に残っていないようなので、中学、高校へ移行しようとしている。 観光教育をする場合、時間の確保が必要となるので、比較的、ゆとりがある学校を選ぶ必要がある。 また、別のアイデアとしては外国人に町を案内するプロジェクトとして、1,000人の初等教育ボランティアを作るような斬新な案が必要ではないかと思う。